

## 1 月度 「SDGs 入門」

2020. 2. 17 地球環境に学ぶサークル 大江 宏 記

開催日 2020年1月21(火) 9:00~11:00

開催場所 新所沢東公民館 研修室

所沢市では、例えば「所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)」に見られるように、SDGsと積極的に関連付けて、国際社会のSDGsへの取り組みに貢献する姿勢を見せている。市民レベルではSDGsはどれほど理解されているのか? 本サークルでは、改めてSDGsの基礎を考え、意見交換した。以下に当日資料の概要を記す。

## 1 改めてSDGsとは

SDGsとは、2015年9月「国連持続可能なサミット」において採択された「我々の世界変革する: 持続可能な開発のための2030アジェンダ」のこと。持続不可能な今の世界を、持続可能な世界にするために、2016年から2030年までに取り組む検討課題・行動計画を指し、「持続可能な開発目標(SDGs)」(Sustainable Development Goals)(17の目標、169のターゲット、232指標)が示されている。\*「開発」は「発展」など多様な概念として使用。

この文書の前文に、「このアジェンダは、人間、地球および繁栄のための行動計画である。これはまた、より大きな自由における普遍的な平和の強化を追求するものである。」とある。

つまり、このSDGsのゴールは、「誰一人取り残さない(No one will be left behind)」という基本理念に基づくもので、次の3点がポイントである。

- ① 貧困の根絶(経済・社会開発)と持続可能な社会(環境保全)の両立
- ② 不平等(格差)の是正
- ③ 開発途上国だけでなくすべての国に適応される

また、17のゴールは、5つのP= People, Planet, Prosperity, Peace, Partnership: 人間、地球、豊かさ、平和、パートナーシップ、の要素の1つ以上に関わりを持っている。

## 2 どうしてSDGsが採択されたのか: MDGS(Millennium Development Goals)からSDGsへの歩み

SDGsの前身は、MDGS(「国連ミレニアム宣言(2000.09)」)であり、それは「ミレニアム開発目標」(MDGS)として、2015年までに達成すべき8つの目標(貧困の撲滅、女性の地位向上など)が挙げられているが、それらを評価すると、さまざまな格差や「取り残された人々」の存在などの多くの課題があり、2015年以降の新たな取組目標が不可欠であり、次の15年に向けたSDGsがまとめられた。

## 3 SDGsの17の目標とは(カラフルなアイコンは知られているので、文書で表示する)

目標1: あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

目標2: 飢餓に終止符を打ち、食料の安全確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

- 目標 3: あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
- 目標 4: すべての人々に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 目標 5: ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 目標 6: すべての人々の水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 目標 7: すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 目標 8: すべての人々のための持続的、包括的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい雇用)を推進する
- 目標 9: レジリエントな(強靱な)インフラを整備し、包括的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
- 目標 10:国内および国家間の不平等を是正する
- 目標 11:都市と人間の居住地を保命的、安全、強靱(レジリエント)かつ持続可能にする
- 目標 12:持続可能な消費と生産のパターンを確保する
- 目標 13:気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 目標 14:海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 目標 15:陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 目標 16:持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 目標 17:持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

このように 17 の目標は、非常に包括的・普遍的であり、環境、社会、経済の鼎立を目指すものである。そこで、SDGs の担い手は、先進国、途上国を問わず、また政府、自治体、企業、NPO、個人など、種々の主体とレベルに関わるものといえる。

#### 4 SDGs と日本、埼玉県、そして所沢市

- SDGs への取り組みの国別順位:独ベルテルスマン財団+国連 SDSN による国別達成度ランキング 2019
  - ①デンマーク、②スウェーデン、③フィンランド、④フランス、⑤オーストリア、・・・⑩日本/162 国
- 日本は、目標 5(ジェンダー)、目標 12(持続可能な生産と消費)、目標 13(気候変動)、目標 17(パートナーシップ)などの目標が最大の課題群と、指摘されている。
- 「人間の安全保障指標」から見た埼玉県のランキングは 20 位。調査主体の総評に共感。(文献②参照)
- 所沢市は、「SDGs 先進度調査」(日経新聞 2019)で、環境部門の先進度が全国 1位とされた。しかし、総合評価は 47 位、経済部門は 194 位、社会部門 205 位であり、どのような点が低評価なのか今後調べる必要がる。

#### 参考文献

- ①日能研教務部編『SDGs(国連 世界の未来を変えるための 17 の目標) 2030 年までのゴール』みくに出版発売、2017 年。
- ②NPO 法人「人間の安全保障」フォーラム+高須幸雄『全国データ SDGs と日本:誰も取り残されないための人間の安全保障指標』明石書店、2019 年。